アジャイル型開発のためのプロジェクトマネジメント教育に関する研究

PMコース　矢吹研究室　1042098　野口杏子

1. 研究の背景（下の段落，字下げが多い）

　　現在，ソフトウェア開発はバージョン管理を中心にして行われている．市場環境の変化や競合環境の変化が激しくなっており，それに適応するスピードや品質が求められてきている．バージョン管理を行うことで，バグの発見などが早期に確認することができるので、開発を行う際に（何が？）重要となってくる．そのことから，ソフトウェア開発の教育現場でも，バージョン管理システムの導入が求められる．なぜなら開発の手順・手法を講義で学生が学ぶことが多いが，実際にはツールを使う機会が少なく理解が学生には乏しい状況だからである．（この段落だけ，もう一度書き直してみては．文のつながりがあまりよくないです．）

　しかし教育現場にITを導入する試みにおいて，その中心となることが多い学習管理システム（LMS）は，バージョン管理システムを用いる教育には対応していない．たとえば，LMSの利点の１つに学習者の学習状況を細かく把握できるということがあるが，既存のLMSはSubversionやGitのような一般によく使われるバージョン管理システムとは連携していないため，バージョン管理システム上での学習者の学習状況を，LMS上で把握することはできない．そのため，学習者の行動を把握するにはLMSとバージョン管理システムをそれぞれ個別に確認しなければならず，教師への負担が大きくなることが懸念される．

1. 研究目的

本研究では，ソフトウェア開発教育にバージョン管理システムを導入し，それを利用した学習の状況を，LMS上で把握できるようなシステムの開発を行う．LMS上でのログを解析することによって，表面化しにくいソフトウェア開発教育の理解度や，理解しにくいポイントを表面化することができると考える．なおかつ，実際に使われるツールを利用することで，現在のソフトウェア開発についていくことのできる知識を得ることを目的とする．

1. 研究方法（箇条書きの前に一文書いてください．それから箇条書きの左マージンをもう少し小さくしてください．以下，句読点が統一されていません．）
   1. 学習者にGitHubのアカウントを作成してもらい，講義で利用してもらう．
   2. GitHubのログを解析する．
   3. GitHubの特定のアカウントの活動を自動的に取得するプログラムを開発する。
   4. LMS上で、LMSのアカウントとGitHubのアカウントを統合するデータベースを構築する。
   5. ③と④を組み合わせることで、学習者のGitHub上での活動を、LMS上で確認できるようにする。
2. 成果物イメージ

　学習者のGitHub上での活動を，指導者がLMS上で確認できるようにする．

1. 進捗状況

　現在最もよく利用されているバージョン管理サービス（バージョン管理システムを提供するサービス）の1つであるGitHubを、千葉工業大学社会システム科学部で開講されている講義「プログラム言語とプログラミング」で学生に利用してもらうところまで完了．そこから学生のLMSとGitHubのログを統合しており，ログについての解析するところである．

1. 今後の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 日程 | 研究内容 |
| 10月 | GitHubのログ解析．③を行う |
| 11月 | ④⑤を行う |
| 12月～ | 論文執筆 |

参考文献

[1] IPA. 非ウォーターフォール型開発の普及要因と適用領域の拡大に関する調査. 2012-06-24. <http://sec.ipa.go.jp/reports/20120611/reports_20120611-2.pdf>.

[2] 日経コンピューターReport. 楽天がアジャイル開発を全社へ展開. 2012-11-27. <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20121116/437986/?k3>.

[3] WEB+DB PRESS Vol.69. 2012-07-25.

[4] 植野真臣. 知識社会におけるeラーニング. 初版, 培風館, 2007.